

計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

会報 2002-03

発行日：平成14年3月9日
発行元：計画・交通研究会
〒102-0083
東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F
TEL=03-3265-1774 FAX=03-3221-5489
E-mail = easts@sa2.so-net.ne.jp
Homepage =http://www06.u-page.so-net.ne.jp/sa2/easts/

目次

Opinion	1-2
「新しい観光と地域振興」	
News Letters	2-7
事業報告・活動報告	
Announcement	7-8
研究会・催事の御案内	
Publication / Documents	9
刊行物・文献資料	
Backyard	9-10
事務局通信	

Opinion

「新しい観光と地域振興」

安島博幸

観光が変わりつつある。いわゆるマストゥリズムに対して、オルタナティブツーリズムと言われている「新しい観光」が増えてきている。バブル経済の崩壊後立ち行かなくなっている新興のリゾート、団体旅行に依存してきた温泉観光地や古くからある名所旧跡を巡る観光の受け皿となっている観光地が厳しい状況にあるのに対して、これまでは観光の範疇には入らなかったような観光対象が登場し、新たな観光が生まれてきている。グリーンツーリズム、エコツーリズム、エコミュージアム、近代化産業遺産観光、都市観光、ヘルスツーリズムなどである。

交流による地域の振興が国土のグランドデザインを描く上で大きな役割を果たすことが期待されているが、意外と「新しい観光」については知られていないようである。

グリーンツーリズムは、かつては田植え、稲刈り、芋掘り、ブドウ狩りなど農業体験を主体とする農業観光としての歴史は長いが、最近では、風景や環境的な重要性が認められている棚田の保存・活用、地場の材料を使った料理を提供する農家レストラン、道の駅などに付帯する産地直売所などの拡大、クラインガルテン（市民農園）など、そのメニューが大きく広がっている。伝統的な民家、水車

小屋、棚田など地域の歴史文化を伝えるものを現地で活かしたまま保存するエコミュージアム（フランス生まれであるが、日本では『地域丸ごと博物館』などと呼んでいる）の考え方を取り入れているところもある。

エコツーリズムも、1993年末に屋久島、白神山地が世界自然遺産に指定されて以来、日本でも、活性化してきた。地球環境問題への関心が高まり、地域に対してサステナブルである観光開発の方法として注目を集めている。自然生態ばかりではなく、地域固有の文化を大事にする観光の形態でもあり、地域をよく知るインタープリターの解説があってこそ、より深い体験をすることができる。ある種の知識があって、はじめて正しく対象を認識することができる。

最近、話題として取り上げられることが多くなっているのが、近代化産業遺産である。このタイプの観光も事前に対象に関する知識がないとその価値が十分に理解することができない。我が国の近代化に功績のあった鉱山、製鉄所や紡績工場などの産業施設や鉄道、ダム、港、運河などの土木施設なども、保存の対象になっている。海外では、多くの鉱山、製鉄所などの産業遺産が世界文化遺産に指定されており、観光客を集めている。数年のう

ちに日本にも、産業遺産の世界遺産が登場する予定である。

都市観光も、空洞化する都市の中心市街地活性化への役割を期待されている。東京を例にとれば、古くは、はとバス的な観光があり、近年はディズニーランドやお台場など都市観光の代表例としてあげられるのだろうが、もう少し、その範囲を広げて考えれば、ショッピングや食べ歩き、裏通りの探訪など、これまで観光資源とは考えられてこなかったものが遠来の客を集めている。秋葉原などは、世界から人々が集まる第一級の観光地であると言える。実際、外国のガイドブックには、秋葉原が必ず大きく紹介されている。

ヘルスツーリズムは、健康の増進・回復のための旅である。言ってみれば現代版の湯治である。歓楽型ではない温泉地への旅が確実に増えている。タラソテラピーという海水を使う療法のための施設も複数誕生しているし、山頂を目指す登山ではなく気軽に自然の中を歩いて楽しむウォーキングが盛んになっ

ている。世界でも類のない高齢化先進国となった日本でより顕著に顕れている傾向でもあるのだろう。

いくつかの新しい旅の姿、観光地のスタイルを紹介したが、そのキーワードは、地域文化、環境、歴史、健康などであり、これまで観光地あるいは観光資源とは考えられてこなかったものが新たな視点から発見されてきたことに注目していただきたい。

これからも地域の振興を考えると、有力な地域産業が見いだせない現在、観光への期待はますます高くなると思われるが、既存の観光資源にだけに目を向けるのではなく、もう一度、「新しい観光」という視点から地域を見つめ直すと違った切り口が見えてくるのではないだろうか。新しいがゆえに、まだマスツーリズムと比べて地域振興の手段としては未熟で、頼りないかもしれない。早く頼れる手段になれるように研究を進めたいと考えている。

(計画・交通研究会正会員/立教大学 教授)

News Letters

事業報告・活動報告

2002年1月 共催講演会

日時：平成14年1月10日(木)16:00~18:00
場所：日本大学理工学部駿河台校舎9号館
921教室

主催：日本大学駿博会

共催：(財)海外運輸協力協会、計画・交通研究会

テーマ：「バングラディッシュ、ダッカ都市圏の交通状況と将来交通計画」

当セミナーはバングラディッシュ、ダッカ都市圏で交通計画および交通管理を担当しているバングラディッシュ道路交通公社(Bangladesh Road Transport Authority)のMohd. Amanullah Choudhury長官と通信省(Ministry of Communications)のKhwaja Ghulam Ahmed 次官補の来日の機

会を得て開催された。

講演では(財)海外運輸協力協会運輸協力研究センター調査部の舩巴 亮氏より、ダッカ市における日本の開発援助の動向と今回講演者を招聘した経緯が説明された後、お二人にご講演頂いた。なお、講演は英語で行われたが、適宜International Division EngConsult社長のDr. Masud Karimから日本語による補足説明を行って頂いた。講演の内容は以下の通りであった。

「ダッカ市の都市交通の状況と交通問題」
チャウドリー長官

ダッカ市の交通の現状ならびに、BRTAをはじめとする各関連機関の役割が説明された。また、特に大気汚染の改善対策としての最近の交通への取り組みが紹介され、問題となっ

ているベビタクと呼ばれている三輪タクシーの廃止に向けての戦略、排ガス基準の見直しなどが詳しく説明された。最後に、日本からも提案があるCNGバスやCNG三輪タクシーの導入の必要性が述べられた。

「バングラディッシュにおける鉄道整備の現状」 アーメッド次官補

バングラディッシュにおける鉄道網の現状と整備の歴史が紹介された。その後、現在の問題として河川が多いためにネットワークが極端に歪んでいることや、主要都市間が結ばれていないこと、運行管理などの問題、インド・ミャンマー間でのゲージの違いなどが説明された。最後に現在進められている鉄道改善プログラム（PPP）が紹介された。

講演後、参加者から多数の質問を頂き、活発な議論が行われた。

2002年1月 定例研究会

日時：2002年1月22日（火）15:00～17:00

場所：計画・交通研究会 会議室

演題：「成長管理からスマートグロースへの
米国都市開発にみる新しい理論展開」

講師：岡山大学環境理工学部

助教授 谷口 守

司会：日本大学理工学部 助教授 福田 敦

【講演概要】

1. 成長管理の概要

成長管理には幾つか種類がある。例えば、カルフォルニアのペタルマのように開発抑制型の成長管理、ボストンのように開発の抑制



谷口 守 先生

よりも都心の再開発を目的とする成長管理、日本の都市計画に近い発想で州レベルでの広域調整を目的とする成長管理などがある。

成長管理が進んだ背景には、自分の不動産や生活の質を下げたくないという居住者の欲求があるが、結果的には都市のあり方を都市環境と人とインフラのバランスを取るという望ましい方向へ進めたと理解することができる。

成長管理をしない場合は後からインフラを整備するために非常にコストが掛かるが、最初から成長管理を行えば、インフラが開発とバランスして整備されるため、低いコストで収まる。

この点に関して日本の市街地を見ると、幹線道路や下水道などのインフラが整備されないままに都市開発だけが行われてきている。仮に、日本の市街地で始めから成長管理をして都市開発に合わせて道路と下水道を整備する場合と、市街化が進んでから道路と下水道を整備する場合のコストを試算して比較したところ、5倍位異なる結果が出た。

2. 成長管理からスマートグロースへの流れ

米国の場合、成長管理は住民投票で簡単に導入できるので、将来像を考えないまま現在の居住環境を守るためだけに安易に導入される傾向にあった。そのため、自治体のディベロPPERへの負荷の転嫁や、フィスカルゾーニングによる税金の徴集などの問題が発生した。また、アメリカ経済の落ち込みの中で、環境重視一辺倒だと批判され、社会・経済分野への対応が求められるようになった。そこで、今度は都市やコミュニティの活性化、都市財政も考えて都市開発を行うという視点で、スマートグロースという言葉が使われ、導入されてきた。

したがって、成長管理とスマートグロースは明確に区分できないが、資金調達など財政的枠組みを考慮する点で異なっている。ただし、スマートグロースによって都市をコントロールする手法は成長管理と同様で、キャップ制、グリーンベルト型、ダウンゾーニング、

計画系のプロセス変更、インフラ整備重視などがあり、各自治体の特性に合わせて使い分ける必要がある。

3. スマートグロースの実例

メリーランド州の実例では、インフラ整備のためにお金を投下する範囲をPriority Funding Areaと定め、既存の市街地だけを重点的に開発することで、スプロールを絶対許さないという方法を取っている。加えて、郊外に立地してもメリットがないようにすることでコンパクトな都市を目指すインセンティブを高めている。ここで、個別プロジェクトの例としてベセスダを紹介する。この地域では、全ての開発を低層で行い、高規格開発とすることで都市環境を整えている。さらに以下3点を目標とし、住みよい都市環境を実現させている。土地利用を混合し、朝も夜も人が来るような施設構成にし、滞在型の開発を目指す。公共交通、道路交通を中心とした、計画規格以上の都市環境を提供する。

公民のパートナーシップを考える。

4. 課題整理

スマートグロースは、今後一層広まってくると考えられる。しかし、結局スプロールは進むという批判もある。また、スマートグロースという言葉が普及していないため総合的政策として認識されていない、成長管理として混同されているなどの問題がある。また、多目的計画なので環境の他に、経済、コミュニティなど全ての目標を達成するのが難しいと考えられる。

2002年1月 共催セミナー

(シリーズ第1回)

本セミナーは、昨年10月に終了した下記テーマに記したJICA開発調査を会員に広く紹介し、意見交換を行うために開催された。

本開発調査では、市民参加型のマスタープラン作成という新しい試みを導入し、交通安全キャンペーン、二輪車迂回のための街路舗装、バスの運行実験などを、プノンペン市政府、民間企業、住民、学生などの協力のもと

で実施した。セミナーの概要は以下のとおりである。

主催：アジア交通学会、国際協力事業団、
計画・交通研究会

日時：平成14年1月24日(木)13:30～16:30

場所：プラザ・エフ(主婦会館)四谷駅前

司会：東京工業大学工学部

教授 屋井鉄雄 先生

テーマ：プノンペン市都市交通計画調査

- 計画策定と社会実験 -

【講演概要】

1. プノンペン都市圏の現況と課題

(国際協力事業団 紺屋健一、EX都市研究所 部長 倉内克巳様)

プノンペンにおいては、人口増、都市の拡大、不十分な道路、公共交通機関の欠落等のために、交通混雑、大気汚染、事故等が顕著になっている。これらの問題の改善のために、交通と土地利用の整合性、カンボディア側の計画策定能力の向上、パブリック・インボルブメント等を重視しつつ、都市交通マスタープランを策定した。

2. マスタープランの全体像

(片平エンジニアリング・インターナショナル 取締役 櫻井裁之様)

マスタープランでは、バスとパラトランジットを共存させることとした。このために、道路整備計画、公共交通計画、交通管理計画、財源、法制度等について包括的・具体的に計画を策定した。また優先的に実施すべきプロジェクトについてフィージビリティ調査を行った結果、市街地街路の舗装及び信号機は、効果が大きく早期に実施すべきであり、バス事業については、車両の供与の下で公共側が実施すべきであることを提案した。

3. バス運行実験の企画と実施

(メッツ研究所 代表取締役 古藤政人様)

プノンペンでは、都市内の公共交通としてのバスが存在しない。またバイクが非常に多く、自動車等との混在により交通混雑や事故の危険性を助長している。このため、バスを試験的に1ヶ月間走行するとともに、一部バ

ス路線で二輪車の走行規制を行った。バスには約10万人の利用客があり好評であった。また交通渋滞の緩和も見られた。

4. 交通安全キャンペーンの実行

(福山コンサルタント 次長 鍋島泰雄様)

非常に悪い交通マナーを改善するために、横断歩道を渡る、車線の逆行は走行禁止である等の基本的なマナーについて啓蒙活動を行った。これは、テレビ、ラジオ等のメディアだけでなく、横断幕や地元小学生によるステッカー配布及びポスター作成等様々な方法を採用した。この結果、交通の円滑化等や事故の恐ろしさの認識が高まる等の効果があった。

セミナーへの出席者は大学関係者、コンサルタント、官庁等60名を超え、また質疑応答においては、フィリピンのジープニーのような小型で自由度が高い公共交通機関の導入可能性や、プノンペン固有のマスタープランの戦略の必要性、工事時の住民立退への対応方針について意見がなされ、非常に活発なものとなった。

2002年 2月共催セミナー

(シリーズ第2回)

本セミナーは、現在実施中である下記テーマに記したJICA開発調査を会員に広く紹介し、意見交換を行うために開催された。

本開発調査では、土地利用と交通、TDM、組織、制度、税制等都市交通に関係する様々な計画を統合した、過去最大規模の都市交通マスタープランの策定やフィージビリティ調



共催セミナー会場風景

査を実施しているところであり、また特に地方分権の流れのなかで、地方自治体職員の能力開発や多様な関係者による参加型の計画を目指しているものである。セミナーの概要は以下のとおり。

主催：アジア交通学会、国際協力事業団、
計画・交通研究会

日時：平成14年2月1日(金)13:30～16:30

場所：プラザ・エフ(主婦会館)四谷駅前

司会：筑波大学社会工学系

教授 石田東生 先生

テーマ：インドネシア国ジャカルタ首都圏
総合交通計画調査

【講演概要】

1. ジャカルタ首都圏の都市交通の現況と課題 (国際協力事業団 紺屋健一様)

インドネシア国では経済発展基盤の強化が必要であり、本調査は日本の政府開発援助として、これに貢献するものである。本調査では、ジャカルタ首都圏の持続的発展を支援する都市交通マスタープランを策定中である。さらに経済成長の支援、モビリティの確保、環境負荷低減、安全性の確保を重視し、このために地方分権化等の大きな流れを踏まえつつ、土地利用と交通、TDM、組織、税制等の多岐に渡る分野を統合的に捉えたものとなっている。

2. ジャカルタの都市成長と交通整備のあり方 (筑波大学 石田東生教授)

ジャカルタでは特に郊外部での人口増加が著しく、交通量の増加も著しい。ジャカルタでは、過去に多くの都市計画、交通計画があり、主に南部及び北部の一部地域にて開発が抑制されているために東西方向の開発が進められている。マスタープランでは、東西方向の開発のための戦略的なコリドーや、階層性のある道路ネットワーク、都市センターの結節性の強化等を提言している。今後は、詳細な交通調査等を行い具体的な計画を策定する。

3. MRTの成立性とTDM

(パシフィックコンサルタンツインターナショナル
課長 本田和仁様)

MRT(地下鉄)は過去に多くの計画が策定されてきたものの、1997年の経済危機の影響で進展していない。今回は、これらの計画を見直し、事業実施には財務的に成立させることが不可欠であり、単にMRTを整備するのみでなく、ロードプライシング等のTDM施策や、駅周辺の土地利用の高度化等を同時に行う必要があることが明らかとなった。

4. 経済危機直後における交通政策のあり方

(パシフィックコンサルタンツインターナショナル
次長 輪千智一様)

1997年の経済危機により、GDPは大幅に減少し、経済活動の低迷、失業者の増大等により交通需要は大幅に減少した。政府の負債は増大し、インフラ投資も困難となった。このような状況のなかで、巨額の資金を必要とせず、また土地収容等も少なく、直ちに実施に結びつく短期計画を策定し、公共交通等の既存施設の有効利用、信号システム、歩道整備等の交通管理手法、ソフト的施策、社会実験の実施について提言した。

セミナーへは、大学関係者、コンサルタント、官庁やインドネシアからの留学生等幅広い層から60名程度の出席があった。質疑応答においては、自動車から公共交通への転換方策や参加型の計画策定等について活発な意見があった。

2月定例研究会(フォーラム)

日時：平成14年2月8日(金)14時~17時

場所：計画・交通研究会 会議室

演題：「新都市・地域再生計画に関する実践的研究 - 南房総を中心として - 」

講師：座長 土地区画整理士会会長

渡部 與四郎 先生

(株)東洋開発コンサルタンツ代表取締役会長

小沢 邦彦 様

愛知産業大学教授

田島 学 先生

工学院大学名誉教授

中嶋 泰 先生

日本技術開発(株)部長

前川 行正 様

日本技術開発(株)顧問

高橋 剛 様

司会：日本大学理工学部 教授

榛澤 芳雄 先生

【講演概要】

房総計画研究会は渡部先生を議長として毎月一回づつ議論を重ねてきた。その中間まとめとして今回の報告会が多くの拝聴者を招いて行われた。

まず渡部先生から房総計画研究会の目的と趣旨を、次に全体構成と基本的考え方を小沢様にお話いただいた。その全体構成が、房総のイメージづくり・地域づくり・核づくりに基づいた房総オアシスづくり、また自然・資源の循環、太平洋国土軸の中での半島性を活かした房総の位置付け、その3つの筋に沿って計画が構成されていることの説明があった。

その全体構成の説明を受けて、まず房総のイメージづくりに関して、田島先生の講演があった。実際に房総を訪れた時のビデオを写しながら説明があった。そこでは現在の房総の風景における問題点を提示しながら、またドイツ等他地域での例と関連させながら、房総には素晴らしい素材が多くあるので是非それを生かした工夫をするべきであるという提案を戴いた。

次に中嶋先生から、房総計画に当たり景観



渡部 與四郎 先生

の対策と食文化について説明があった。景観・地区計画に関しては、長い時間をかけてじっくりとやっていく考えが必要であるということであった。食文化については房総は世界でも有数のうまいものを食べさせることのできる地になるであろうと、さらに食文化は人づくりの根底が鍵になっているということであった。

また、前川様からは具体的な施設の一つとして「道の駅」に関してお話しを戴いた。将来の「道の駅」として、セパレート的な役所、SOHOの拠点、海運を絡ませたもの、防災広場等の機能を有した各地域の「道の駅」を提

案していただいた。

高橋様からはシルバービレッジの提案を戴いた。これは高齢化への対応と自然との共生、半島の温暖性という3つの理念に基づいて構成されており、それを具現化した一つのビッグプロジェクトとして提案していただいた。

港湾・空港については渡部先生より房総と伊豆半島の間を考えた館山の港について、また空港は富津での具体的な構想についての説明があった。

この後、地方公共団体の方を中心に、質問・意見が寄せられた。

Announcement

2002年3月 定例研究会
土木学会CPDプログラム

日時：平成14年3月20日(水)15時～17時

場所：計画・交通研究会会議室

講演題目：「大和市都市計画マスタープラン」
講演概要

神奈川県大和市では、平成9年に、都市計画法第18条の2に規定する都市計画に関する基本的な方針として「大和市都市計画マスタープラン」を策定しました。策定にあたっては、インターネットを利用した計画たたき台の公表や意見の募集、またポスターセッションの開催など、当時まだあまり試みられていなかった参加手法に取り組みました。これにより、広範な市民参加を実現することができ、その後の様々な計画策定にあたっての市民参加のモデルケースとなりました。この市民参加を経た都市計画マスタープランの策定経過についてご紹介します

講師：大和市 都市部 都市総務課

都市政策担当 川口 敏治 様

プロフィール：1982年大和市役所入庁
2001年4月から現職

研究会・催事の御案内

司会進行：日本大学理工学部交通土木工学科
助教授 福田 敦 先生

2002年4月 定例研究会
土木学会CPDプログラム認定申請中

日時：平成14年4月10日(水)15時～17時

場所：計画・交通研究会会議室

講師：足利工業大学 教授 為国孝敏 先生
プロフィール：

1981年日本大学理工学部交通工学科卒、83年同大学院理工学研究科博士前期課程修了。(社)土木学会事務局勤務を経て、96年から足利工業大学工学部講師、助教授を経て、01年より現職。専門は土木史、まちづくり、交通計画。

現在は、近代土木遺産の活用をメインテーマとし、足利市、桐生市、佐野市などの中心市街地の活性化とまちづくりや、岐阜県、宮城県、千葉県での生涯学習と地域づくりに携わる。静岡県、山形県、栃木県の近代化遺産総合調査委員(土木担当)の他、平成12年から栃木県文化財保護審議会委員を務める。

著書に、「身近な土木の歴史」(単著、東洋書店)、「近代土木遺産の見方・しらべ方」(共著、ぎ

ようせい)、「日本の近代土木遺産」(共著、土木学会)、「土木計画学」(共著、コロナ社)、「飛騨ぶり街道物語」(共著、岐阜新聞社)など。

演題：「市民参加型まちづくりへの挑戦!!
- 足利のまちづくりNPOと桐生のまちづくりの会での実践経験から -」

講演概要：

現在、全国の津々浦々で市民参加によるまちづくり活動が盛んに行われている。こうしたまちづくり活動の推進主体は、主に市民活動によるボランティア団体が担ってきたが、平成10年に成立した特定非営利活動促進法の施行によって、これらの市民活動組織の多くが特定非営利法人(NPO法人)として申請し、認証されるようになった。一方で従来同様に、法人格を有せずに活動を続けている組織も多い。どちらにせよ、現在の市民参加型まちづくりは、百花繚乱、千差万別、何でもござれの世界である。そのため、特定個人のリーダーシップなくして活動そのものが萎んでしまう傾向も強い。なぜなら、活動自体の明確なビジョンやその具体的な方法・プロセス論などが十分に整理・検討されないまま、地域利害や感情論ばかりが先行していることが指摘できよう。本講演では、市民参加型まちづくり活動へ3年間に渡って参加している経験を紹介しながら、何がどこまでできるか、その限界と可能性について言及する。具体的には、NPO法人足利まちづくりセンター・VANNNOOGA(会長：中川三朗本会会員)を中心する足利市での事例と、本一・本二まちづくりの会による桐生市での事例で実践してきた活動経緯から命題について論述する。

司会：日本大学 助教授 福田 敦 先生

2002年5月 定例研究会

土木学会CPD申請中

日時：平成14年5月8日(水) 17時~19時

場所：計画・交通研究会 会議室

演題：「NEWダウンタウン：街の賑わいづくり」

講演概要：「都市再生」の掛け声に乗って、東京にはクレーンが林立しています。2003年には200万平米という膨大な面積のオフィスが出来あがるとか。。？

これで街が再生するのか？あまりに乱暴に事業が進められている気がします。私達は商業施設を中心に街の賑わいづくりに関わってきました。それらの事例を元に、建物建設だけでは醸し出せない心地よさ楽しさ 愛着づくりの手法について考察したいと思います

講師：(株)北山創造研究所 取締役

設計推進担当 松岡 一久 様

プロフィール：

1960年生まれ 神戸大学環境計画学科卒業

主な仕事歴

賑わい開発 サンストリート{東京 亀戸} 函館西波止場{函館} チャーチストリート{軽井沢} ラットプラット{大阪 堺} オフィス計画 仙台ソフトウェアセンター{仙台} プリズムビル{長野} その他アクセルホール&ラボ{仙台} 日本ランドスキー場センターハウス{静岡} 青森市中心市街地活性化基本計画、

2002通常総会・懇親会

日時：平成14年4月23日(火)

18:00~19:00 通常総会

19:00~20:30 懇親会

場所：プラザエフ 四谷駅前

議事：13年度事業報告、決算報告 14年度事業計画、収支予算、役員の改選など
詳細は別途3月中旬にお知らせします。

寄贈文献資料

一般図書 寄贈者：八十島和歌子様

『私の考えるクルマ社会---未来を語る18のヒント---』(社)交通工学研究会、2002.1
報告書

『健康村むらづくりの記録(世田谷区・川場村
縁組協定20周年記念)』、世田谷区・川場村、
2001.11.18 寄贈者：鈴木忠義先生

『二十世紀における日本の都市計画を回顧
する---明星大学教授 広瀬盛行 最終講
義---』 寄贈者：広瀬盛行先生

『JALグループ50年の航跡 Contrail of
JAL Group 1951-2001』映像・画像・音
楽等の歴史資料を使いCD-ROM2枚と冊子
に編纂 寄贈者：八十島和歌子様

平成13年度修了学位論文リストの作成

平成13年度修了の博士・修士の学位論文リ
ストを作成しますので、個人正会員（先生方）
は下記事項を平成14年4月15日までに事務局
へ電子メールまたはFAXでお知らせください。
特に有用ならば卒業論文でも受け付けます。

提出項目

大学 / 大学院名・学科・専攻名・研究室名

論文著者氏名

論文タイトル

学位取得年月日

博士・修士・卒論区分

実務レベルへの応用可能性レベル(、 、)

発表の概要が閲覧できるWeb Pageのアドレス

(注)レベル :基礎学術的研究成果で、応用
段階に至っていない

レベル :データ更新等で改良を加え
応用可能なレベル

レベル :ソフトウェア等、そのまま
応用可能なレベル

利用方法

・提出された論文情報を集約し、会報5月号
に掲載。

・会員からの要望により個別研究会・定例研
究会等を開催し説明。

なお、個別研究会・定例研究会は開催日
時・場所・テーマ・説明者等を会報にて広報
する。

Backyard

会議室等の御利用について

当研究会の会議室、応接室をご利用下さい。

定例研究会や個別研究会の開催時以外は部
屋が空いています。会員の皆様はお気軽にご
利用下さい。個別研究会等で会議室を御利用
になる場合は、取りあえずお電話を下さい。

会議用にはOHP、スライド(Kodak)、液晶
プロジェクター(APTi)が有ります。

個別に利用できるデスクがあります。貸し
出し用ノート型パソコン(IBM Think Pad)、
FAX、電話、コピー、E-mailもご利用いた
だけます。

なお、会議室は現在利用率が非常に低い状

事務局通信

況にあります。どうぞ、お気軽に御利用くだ
さい。(別途ホームページにて部屋の空き状況
がわかり、申込みも容易にできるようなシス
テムを検討中)

個別懇談会のお申し込み

会員各位個別の研究やプロジェクト等につ
きまして、当会のフェロー会員・個人会員(地
域的にも研究部門の面でも多彩な教授・助教
授がおられます。既送の会員名簿を御参照下
さい)が個別に御相談・懇談に応じます。ご
希望により日時を調整しますので、事務局ま
で遠慮なくご相談下さい。出来れば具体的

研究課題・プロジェクト内容と、希望されるフェロー会員・個人会員のお名前をご連絡下さい。

原稿の募集

会報に掲載する下記の原稿を募集します。

- ・ **Publication/Documents** : 刊行物・文献資料。
体裁は本号4ページを御参照下さい。
- ・ **Announcement** : 研究会・催事の御案内
会員による講演会等の御案内も随時掲載します。日時・会場・事務局等を明記願います。
- ・ **Report** : 報告
海外研修報告、国際会議参加報告等

原稿執筆上のご注意

原稿のテキストファイルを電子メール（推奨。本文挿入または添付ファイルで）あるいは3.5インチのフロッピーディスクでお送り下さい。ワードプロセッサを使用される場合は、MS-Word形式もしくは一太郎形式で文書ファイルを保存して下さいようお願いいたします。

編集の都合上、400字を1単位としてその整数倍（上限4単位＝1ページ分：表題・図表を含む）になるように調整して下さい。2ページ以上に及ぶ場合は御相談下さい。

写真を使用される場合は、プリントされたものを郵送願います。

締め切りは偶数月の15日（必着）です。

計画・交通研究会

会長	中村 英夫
副会長	黒川 洸
副会長	森地 茂
事務局長	窪田 陽一
会報編集委員長	天野 光一
会報編集責任者	橋本 昭夫

〒102-0083

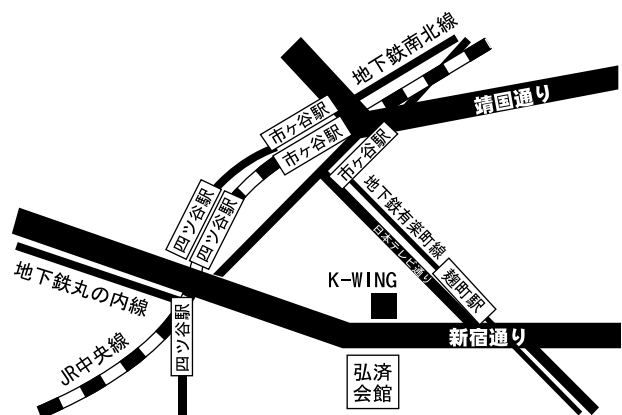
東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

TEL=03-3265-1774

FAX=03-3221-5489

E-mail = easts@sa2.so-net.ne.jp

Homepage = <http://www06.u-page.so-net.ne.jp/sa2/easts/>



計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅下車徒歩5分 / 営団地下鉄丸の内線四ッ谷駅下車徒歩5分 / 営団地下鉄南北線四ッ谷駅下車徒歩6分 / 営団地下鉄有楽町線麹町駅下車徒歩4分